年間業績発表　棚卸資料

部門　　入所　／　通所　／　訪問
PT　／　OT　／　ST
コアカリ（　フレイル対策　　）

当施設リハビリテーション部では、質の評価をドナベディアンモデルを使用して毎年棚卸を行っています。
棚卸の目的は、在庫や品質を把握することで、課題に対して今後に活かすために実施します。
ドナベディアンモデルは、医療の質を評価する際によく用いられます。
これは、「構造 structure」、「過程 process」、「結果 outcome」の3つの側面で評価します。
評価結果を下記にまとめてみてください。

≪年間目標≫
①フレイルについての知識を深める
②評価内容を検討し、利用者にフレイル評価を実施する

●構造　structure
【物的資源】
活動量計、利用者の体重管理表（栄養士管理）
【人的資源】
PT3名（協力：常勤スタッフ、栄養士、介護スタッフ）
【組織的特徴】
文献検索し情報収集

●過程　process
①個々で文献や資料を集め、メンバー間で情報を共有
②入所者に対してどのようなフレイル評価を用いることができるのかを検討
・今回は活動量計が入所者に活用できるのかを検討
・まずは健常者でも正確なデータを得ることができるのかを確認するためにコアメンバー3名が1週間活動量計を装着し、活動量・歩数・総消費量を測定。常勤スタッフ4名にも1週間活動量計を装着してもらい、活動量・歩数・総消費量を測定。データ収集した結果、おおよその数値は反映されていることを確認。
・入所者で対象者を3名選定（移動手段が車いす自立、押し車自立、T字杖自立と、異なる3名を選定）
・対象者の状態を把握するために、栄養士から対象者の摂取カロリーや体重の推移などについて情報収集した
・評価期間を3日間設定。対象者の活動量・歩数・総消費量を測定。
（3日間の行動を把握するために対象者には日中のスケジュールを記載してもらう）

●結果　outcome
・対象者3名とも活動量計に活動量や総消費量は反映されていたが、移動手段が歩行である対象者1名の歩数が反映されていなかった
・要因として、歩き方がすり足や上下運動が少ない場合には歩数に反映されていないことが考えられる
・活動量計は個々の評価は可能であるが、他者と比較することは難しいことがわかった

≪次年度持ち越し課題≫
・今後は下腿周径や握力など簡易におこなえる他の評価をフレイル評価の指標として、利用者の状態を把握する必要があると考える